

日本バドミントン学会 第8回学会大会

プログラム・抄録集

日時：2025年3月2日（日）

場所：筑波大学

JSBR 日本バドミントン学会
The Japanese Society for Badminton Research

<大会概要>

期日：2025年3月2日 10:55～17:35

場所：筑波大学

参加費：正会員 3,000 円 学生会員 1,000 円 非会員 5,000 円

大会長：吹田 真士（筑波大学）

<アクセスマップ>

【筑波大学キャンパスマップ】

筑波キャンパス 南地区



エリア名	施設名
大学会館	46 講堂
エリア	47 大学会館、筑波大学ギャラリー、筑波大学アトスベース
	48 総合文化会館
	49 大学会館2階
	50 学術情報メディアセンター
	51 グローバルコミュニケーション教育センター
	52 保健管理センター
	53 国際図書館
体育・芸術	54 芸術学系棟
エリア	55 5C棟 体育館棟エリア支館室
	56 体育館棟1階
	57 体育館棟2階
	58 体育館棟3階
	59 6A、6B棟
	60 新館学芸工芸棟
	61 アート＆デザイン実習室
	62 体育・芸術図書棟
	63 中央体育館
	64 T-Dome
	65 スポーツ設備工学実習棟
	66 体育館
	67 グローバルデザイン・デザイン・デザイン棟
	68 体育センター、体育系サークル会館
	69 屋内プール
	70 武道館
	71 陸上競技場
	72 陸上競技場
体育施設	73 総合体育館D
エリア	74 体育館
	75 体育色務所
	76 クラブハウス
	77 野外活動練習施設



受付：マップ内 55 5C棟 5C216 教室 入口ロビー

会場：マップ内 55 5C棟 5C216 教室

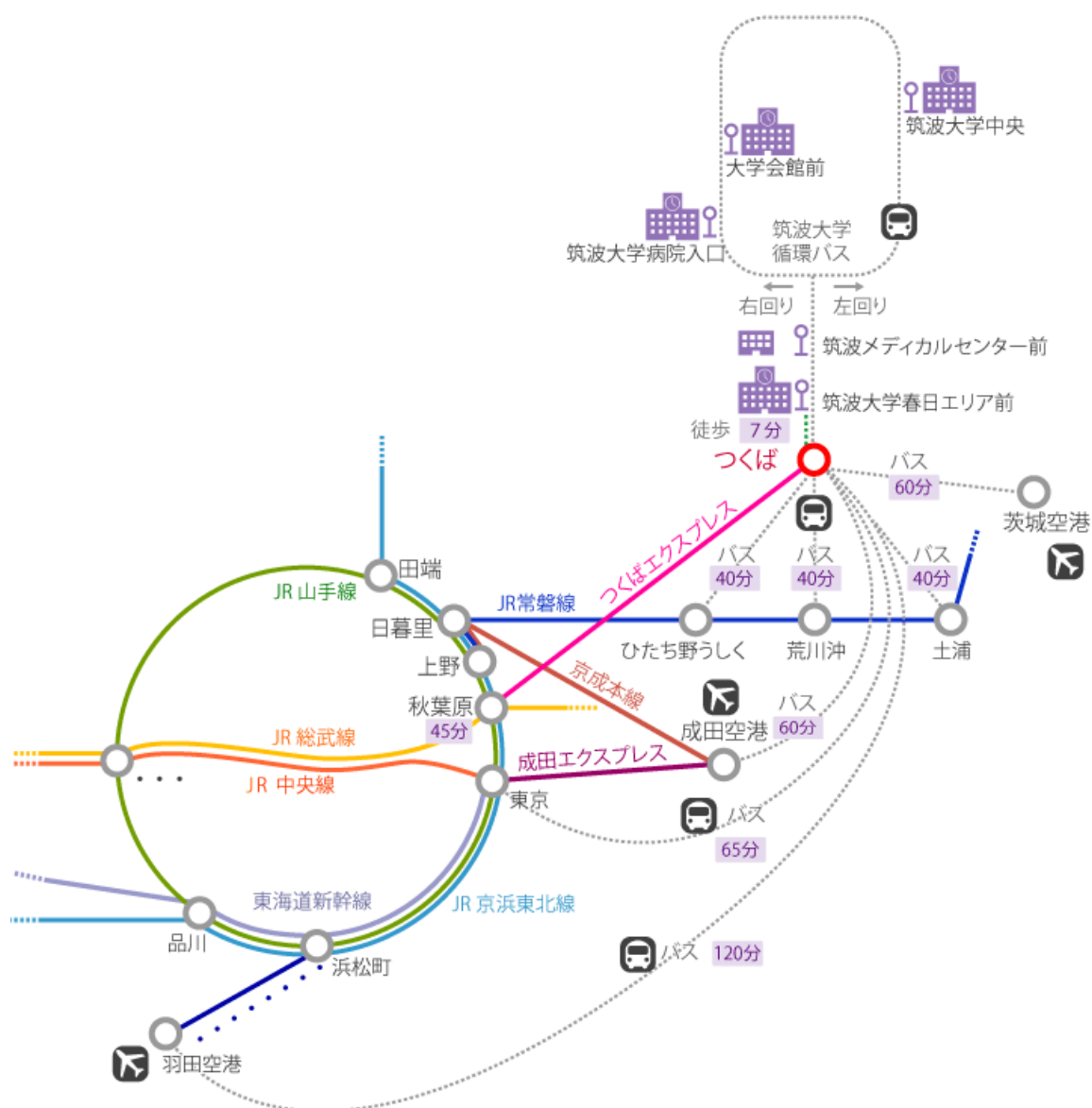
学内に一般駐車場はございません。公共交通機関をご利用いただき、お越しく下さい。

・つくば駅（つくばセンター バス停）から会場最寄りバス停まで

【10:40 つくばセンター発 - 10:48 筑波大学西】筑波大学循環（右回り） ¥230

【10:20 つくばセンター発 - 10:28 合宿所】筑波大学循環（左回り）¥230

・つくば駅から会場（5C棟）まで徒歩約40分（約3km）



＜会場内でのお願い＞

1. 講演会場内では、携帯電話をマナーモードにしてください。
2. 大会主催者側に許可のない講演の録音、写真撮影、ビデオ撮影は固くお断りいたします。

＜口頭発表に関するお知らせ＞

1. 発表は以下の通りです。持ち時間の厳守をお願い致します。
一般： 発表 8 分 質疑応答 5 分 計 13 分
2. 発表用 PC は、Windows PC (Microsoft Power Point) を用いて行います。動作確認のため、12:00～12:20 の間に発表用スライドデータを USB フラッシュメモリーにてご持参ください。万が一、主催者で準備する PC でうまく作動しない場合はご自身の PC でも可能ですが、その場合の PC ケーブルコネクタの形状は HDMI です。変換コネクタ等が必要な場合は、必ずご自身で準備してください。
3. 質疑応答は座長の進行のもと、氏名、所属を述べたのち質問してください。
4. その他、参加および発表に関して不明な点は、事務局 (jsbr.office@gmail.com) までお気軽にお問い合わせください。

○プログラム日程

(9:45 ～ 10:15	理事会)
(10:15 ～ 10:45	総会)
休憩 (10 分)	
10:55 ～ 11:00	開会式
11:00 ～ 12:00	基調講演
休憩 (60 分)	
13:00 ～ 14:30	シンポジウム
休憩 (10 分)	
14:40 ～ 15:40	一般演題発表①
15:45 ～ 16:45	一般演題発表②
16:50 ～ 17:30	一般演題発表③
17:30 ～ 17:35	閉会式

<内容>

10:55 ～ 11:00 開会式

11:00 ～ 12:00 基調講演

2030 年以降に世界が動き出す「ウェルビーイング研究」と日本スポーツ界の現状と
課題 ～マルチスポーツの視点から考察するバドミントンの価値向上へ～

大山 高（筑波大学）

司会：吹田 真士（筑波大学）

13:00～14:30 シンポジウム

S/J リーグのこれからを考える

コーディネーター：谷藤 千香（千葉大学）

○ 魅せるスポーツとしてのバドミントン現在地と今後のチャレンジ・可能性

出井 宏明（日本バドミントン協会）

○ T リーグ創設秘話～強化・育成・普及で卓球界を改革～

松下 浩二（VICTAS）

○ 元日本リーグ・トップチームスタッフから見る S/J リーグチームの役割案について

喜多 努（羽衣国際大学）

14:40 ～ 15:40 一般演題発表①

座長：中谷 敏昭（天理大学）（発表 8 分，質疑 5 分）

O-1 男子ダブルスの守備的局面における注視行動の検討

—リアマンが打つ時とフロントマンが打つ時の比較—

吹田 真士¹⁾，藤澤 佳史²⁾，佐久間 浩平³⁾，新居 花梨³⁾，國部 雅大¹⁾

¹⁾ 筑波大学体育系

²⁾ トナミ運輸

³⁾ 筑波大学大学院

O-2 バドミントン競技の得点スコア分布に基づく勝利要因の推定手法

宍戸 英彦¹⁾，羽賀 麻衣¹⁾

¹⁾ 創価大学

O-3 多様性適応力を高める大学体育バドミントン授業の試み

藤野 和樹¹⁾, 市村 由起¹⁾

¹⁾ 千葉商科大学

O-4 大学体育バドミントン授業における簡便な技能評価指標の検討

— 1 分間 6m ラリー回数 —

藁科 侑希¹⁾

¹⁾ 静岡産業大学

15:45～16:45 一般演題発表②

座長：山崎 将幸（東亜大学） （発表 8 分，質疑 5 分）

O-5 バドミントン競技の男子シングルス種目におけるショットのスタッツとゲーム勝敗の関係性について —世界ランキング上位選手を対象として—

須田 翔大¹⁾, 林 直樹²⁾

¹⁾ 仙台大学大学院

²⁾ 仙台大学

O-6 大学男子バドミントン選手におけるダブルスのサービス場面時の注視時間の特徴

永渕 雄大¹⁾, 佐久間浩平²⁾, 新居花梨²⁾, 國部雅大³⁾, 吹田真士³⁾

¹⁾ 筑波大学

²⁾ 筑波大学大学院

³⁾ 筑波大学体育系

O-7 中学生バドミントン競技人口の動態に関する研究

—選手登録数の歴史的変化と地域差を中心に—

佐久間 浩平¹⁾, 齋藤 健司²⁾

¹⁾ 筑波大学大学院

²⁾ 筑波大学体育系

O-8 早朝のバドミントンが気分にあげさす影響

漆崎 真子¹⁾, Rakwal Randeep²⁾

¹⁾ AKUA BADMINTON

²⁾ 筑波大学体育系

16:50～17:30 一般演題発表③

座長：児玉 友（日本福祉大学）（発表 8 分，質疑 5 分）

O-9 大学男性トップ選手におけるハイバックハンドストロークの動作分析

— クリアショットの正確性に着目して —

新居 花梨¹⁾，佐久間 浩平¹⁾，有井 さやか²⁾，吹田 真士³⁾

1) 筑波大学大学院

2) 日本体育大学大学院

3) 筑波大学体育系

O-10 バドミントンの効果的なオーバーヘッドストロークについて

— 身体動作の違いに着目して —

石井 大翔¹⁾，西島 壮²⁾

1) 実践学園高等学校

2) 東京都立大学

O-11 小学校体育へのバドミントン導入に関する授業づくりの試案

— “バドぼん” を教材として —

中谷敏昭^{1,8)}，西島 壮^{2,8)}，藤野和樹^{3,8)}，山崎将幸^{4,8)}，

宮田美文^{5,8)}，吹田真士^{6,8)}，前口大希⁷⁾

1) 天理大学

2) 東京都立大学

3) 千葉商科大学

4) 東亜大学

5) ミズノ株式会社

6) 筑波大学

7) 五条小学校

8) 日本バドミントン学会「未来の羽根プロジェクト」推進委員会

17:30～17:35 閉会式